

「主語」という忍者の見つけ方

一年生のみなさん、五月も半分が過ぎましたね。緊急事態宣言が解除され、登校する日が近づいてきたね。着実に準備してね。さて、今日も文節について話しますね。竹の節は全て同じ形、同じ色をしています。文節は違います。それぞれに違う役割があつて、それぞれがその役割を果たしているから、コミュニケーションがとれるのです。中でも、二つの大きな役割の文節が「主語」と「述語」です。小学校でも勉強しましたよね。その二つを説明しますね。

「〜は」「〜が」が主語だと思い込んでいる人はいませんか。間違いだとは言いませんが、それだけで判断するのは非常に危険です。なぜなら、主語は忍者だからです。文の中から姿を消したり、姿を変えたりして正体を出さないことがあるからです。しかし、忍術を使っていて主語を見つける方法があります。その方法で見つけるときに役立つのが、「述語」です。この二つをペアにすると、確実にみつけれられます。

今日は 国語の 文法を 勉強しました。

主語からみつけてはいけません。まずは、述語からみつけることです。述語をみつけるのは簡単です。なぜなら、日本語の場合、ほとんどの場合、文の最後にくるからです。述語は「どうする（どうした）、どんなだ、あるかないか」などを表す部分で、文を締めくくる文節です。締めくくるのですから、最後にきますよね。難しく考えないでね。

したがって、先の文の中の述語は「勉強しました」です。次に、こうやって自分で自分に質問してみてください。勉強だから人間がやるんだよね。「勉強したのはだれ?」って。「だれが勉強したの?」って。まさか「今日」という人間ではないよね。だから、「〜は」が主語だとすぐに決めつけてはいけません。この場合、恐らくこの文を書いた人でしょよね。そうなんです。この文には主語がないのです。「姿を消す」とはこういうことです。

小さいが、赤い この 花も、とても きれいですね。

この文の中の主語はどれですか。「〜が」だから「小さいが」が主語?違いますよ。そんなに慌ててみつけなくてください。手順に沿ってみてくださいですよ。

まず述語ですね。文の最後なのですから、「きれいですね」です。この場合、人間は出てきていないようなので、「きれいなのは何?」「何がきれいなのか?」と尋ねると「花も」となります。これが主語なのです。姿を変えているでしょ?「も」となっている、主語になるのですから、軽率に判断してはいけませんね。

これからテストで主語や述語を問われることがあります。そのときは**一文節をそのまま答えて**ください。主語は「花」だと答えたら×になりますよ。「花も」が主語だと答えてね。